1 月 22 日のメッセージ

聖書：ルカによる福音書　4：　16 – 30

「耳にしたとき、実現した」

いよいよイエスは神の国を宣べ伝え始められます。最初に招かれた弟子たちだけに留まることなく、全ての者を招くべく会堂へと足を運ばれるのです。

礼拝に集うということは、神を求めているということでしょう。そこに集う者は皆、神の言葉に、神の思いに飢えていたはずです。そのような人々を前に、イエスは聖書の言葉を朗読されます(「主の霊がわたしの上におられる。……主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」ルカによる福音書 4:18-19)。それは、救いの実現を高らかに宣言する言葉でした。「これこそ、自分たちが待ち望んでいた救いだ」と、人々は色めき立ちます。

ところが、イエスは人々に冷たく言い放つのです。「あなたたちのところに救いは来ない」と(「エリヤの時代に……エリヤはその中のだれのもとにも遣わされないで、シドン地方のサレプタのやもめのもとにだけ遣わされた。また、預言者エリシャの時代に……シリア人ナアマンのほかはだれも清くされなかった。」ルカによる福音書 4:25-27)。

なぜでしょう。

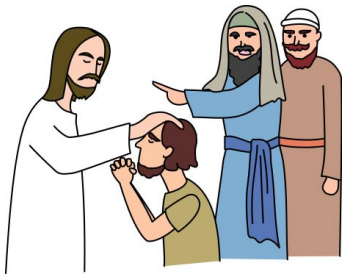
それは、人々が救いというものを誤って考えていたからでしょう。インスタントで、目に見える救いを彼らは求めていました(「きっと、あなたがたは、……『カファルナウムでいろいろなことをしたと聞いたが、郷里のここでもしてくれ』と言うにちがいない。」ルカによる福音書 4:23)。

もちろん、イエスはインスタントな救いが多くの人を集めることを知っておられます。知っているからこそ、自分を棄て、神の前にへりくだる人間を求められたのでしょう(「これを見たシモン・ペトロは、……『主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです』と言った。」ルカによる福音書 5:8)。

そして、神の前に正しくありたいと願う者を求められました。それは、常に神と共に生き、神と共に歩む者(「彼らは主の命令によって宿営し、主の命令によって旅立った。彼らはモーセを通してなされた主の命令に従い、主の言いつけを守った。」民数記 9:23)。絶えず神の方を向き、神との交わりの中で生きる者(「神は真実な方です。この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。」コリントの信徒への手紙一 1:9)。

だからこそ、神は救いをわかりやすい現象や、抽象的な教えとしてではなく、一個の人格として地上に送られたのです。人格との交わりを通して、神と共に生きる約束を新たにさせるために(「主は御自分の民に贖いを送り／契約をとこしえのものと定められた。」詩編 111:9)。

「そこでイエスは、『この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した』と話し始められた。」(ルカによる福音書 4:21)



実現したのは人々が求めるインスタントな救いではなく、本当の救いへと招かれるイエスを「遣わされた」ことです。「今こそ、神は救いの交わりにあなたたちを招いておられる」ということです。

その真実に気づくことのなかった者は、イエスを排除しようとしました。一方、この交わりこそが真の救いであることを知った弟子たちは、全てを棄ててイエスに従いました。

今日もまたイエスは宣言されます。「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した。」と。

今一度、イエスとの交わりを、神との交わりを見つめ直してみましょう。